# 令和４年度　金沢市立鳴和中学校　学力向上の取組（２学期）

研究主題　自ら学び、考え、行動できる生徒の育成

副題　　～生徒同士の関わりから思考力・判断力・表現力の育成を目指す～

効果的な取組推進のための組織図

- **総括（校長）**・学校としての目標を立て、検証結果に基づき、改善の方向性を示す。
- **進捗状況の確認（教頭）**・進捗状況に合わせた主任層への適切な指導・助言と校長への報告を行う。
- **役割分担・検証の集約（教務主任等）**
  ・役割分担とスケジュール管理を行う。
  ・検証結果を集約し、結果を共有する。
- **学力向上策の立案・推進（研究主任）**
  ・学力向上に係る取組の立案や推進を図る。
- **実施・検証（各教員）**・共通実践を行う。

| | 学期 | 児童生徒の現状・課題 | 原因・要因 | 重点的に行う取組 | | 検証の方法と指標<br>児童生徒の状況 | 検証の方法と指標<br>教師の指導・取組の状況 | 結果の検証 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業で行う取組 | 一学期 | ・令和３年度県評価問題より、思考力・判断力・表現力を問う問題については正答率の上昇が見られたが、一方で二極化が進んでおり、課題設定やまとめの指導に工夫と改善が必要である。<br>また、基礎・基本の定着にも課題があり、方策を考える必要がある。<br>・生徒アンケートより、素直な生徒が多く、授業においては課題に真面目に取り組んでいることがわかる。<br>ペア学習など学び合いの場面では、互いに協力し意欲的に取り組む様子が見られる。 | ・各教科部会で、基礎基本の定着徹底のための工夫を行った。しかし継続した取り組みができず、定着につながらなかった。<br>・小中連携を進めながら、各部会で共通の取り組みをしている。また、生徒会やリーダー会を中心とした自治的活動を積極的に実施している。 | ・単元ごとに、思考力・判断力・表現力を問う課題「単元のゴール」を設定する。単元で得た知識をもとに、自分の考えや学びを加えて書いたり、発表したりする活動を行う。<br>・各教科部会で、教科ごとに基礎・基本の定着を徹底するための取り組みを考え、継続的に行う。 | 方法 | 生徒アンケート<br>(1)「授業を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」<br>(2)「授業で、できるようになった、わかったと実感できる。」<br>テスト結果<br>(3)基礎基本問題の正答率 | 教師アンケート<br>(1)「生徒が考えを深めたり広げたりすることができるよう発問や活動を工夫している。」<br>(2)「思考・判断・表現力の育成のために言語活動や学習形態を工夫している。」 | 基礎基本の定着が図られ、生徒の実感につながった。一方で教科や単元によって定着に差がみられる。<br>教師が単元のゴールを意識し、発問や活動を工夫しながら授業づくりを行うことができた。 |
| | | | | | 指標 | (1)、(2)ともに<br>肯定的評価 80%以上<br>(3)正答率　80%以上 | (1)、(2)ともに<br>肯定的評価 80%以上 | |
| | | | | | 結果 | (1)肯定的評価 91%<br>(2)肯定的評価 95%<br>(3)正答率 81% | (1)肯定的評価 97%<br>(2)肯定的評価 90% | |
| | 二学期 | ・生徒アンケートの、「授業では自分の考えを発表する機会がある」の肯定的評価が、昨年度後期と比べ－17 ポイント下がった。<br>・定期テストにおける基礎基本問題の正答率について、最も高い教科で 93%、最も低い教科で 65%と、かなりばらつきがあった。<br>・学力調査より、思考力・判断力・表現力を問う記述問題について、無回答は少ないが正答率が県や市の平均より低い。状況に応じた記述に課題がみられる。 | ・基礎基本問題の出題内容や量に差がある。また出題形式が変わると正答できない生徒が一定数いることが考えられる。<br>・発表やまとめの時間がじゅうぶん確保できず、タイムマネジメントを一層意識する必要がある。 | ・基礎基本問題をおさえる「KOREDAKE プリント」の取り組みを継続して行う。定期テストでの基礎基本問題の出題内容について、教科部会で検討する。<br>・ペア・グループでの活動を設定し、生徒が自分の考えを発表したり意見交流したりする機会をつくる。<br>・各教科「単元のゴール」を設定する。単元で得た知識をもとに、自分の考えや学びを加えて書いたり、発表したりする活動を行う。 | 方法 | 生徒アンケート<br>(1)「授業では自分の考えを発表する機会がある。」<br>(2)「授業で、できるようになった、わかったと実感できる。」<br>(3)基礎基本問題の正答率 | 教師アンケート<br>(1)「学習課題に対するまとめを自分の言葉で書いたり表現したりする時間がある」<br>(2)校内研修や教科部会で、実践例を共有する。 | |
| | | | | | 指標 | (1)、(2)ともに<br>肯定的評価 85%以上<br>(3)正答率<br>５教科すべて 75%以上 | (1)肯定的評価 80%以上<br>(2)学期に２回、共有の機会を設ける。 | |
| | | | | | 結果 | | | |
| | 三学期 | | | | 方法 | | | |
| | | | | | 指標 | | | |
| | | | | | 結果 | | | |
| 授業以外で行う取組 | | ・学力調査等から、提示された資料をもとに自分の考えを書くことに対して抵抗が少なく、書ける生徒、書こうとする生徒が多い。<br>・週末には、既習内容のワーク等に取り組ませる「週末課題」を設定し、家庭学習習慣と学習内容の定着に繋げることができた。<br>・全学年、自主学習ノートに毎日１ページ以上取り組んでいる。しかし、効果的な学習方法を見いだせておらず、内容に工夫が見られない生徒が一定数いる。 | ・様々なテーマについて意見を述べる 200 字作文学習を行い、表現力の向上や授業での深い学びに繋がっている。<br>・自主学習ノートの取り組みについて、うまく活用できない生徒に対するフォローが不十分である。 | ・200 字作文を引き続き全学年で実施する。共通のテーマで自分の意見を作文にした後、グループで相互評価をさせる。<br>・テスト前には各教科の基礎基本をおさえたプリントを作成し取り組ませる。その内容を確認する小テストを実施することで基礎・基本の定着に繋げる。<br>・自主学習ノートでの効果的な学習法や、おすすめの課題を提示し、生徒の取り組みをフォローする。 | 方法 | １学期に２回程度、200 字作文を実施し、生徒による相互評価をしたうえで内容の良いものを校舎内に掲示する。 | (1)平日は「鳴和ノート」、週末には「週末課題」に取り組む。<br>(2)テスト前には基礎基本内容のプリントを作成し取り組ませる。 | １学期の検証<br>週末課題や基礎基本プリントによって、既習内容を復習する習慣が多くの生徒に身についていると考えられる。 |
| | | | | | 指標 | １学期に２回 | (1)週末課題は毎週<br>(2)１学期に２回 | |
| | | | | | 結果 | １学期の結果<br>５月、７月に実施し、各学年の代表作品を校内に掲示することができた。 | １学期の結果<br>(1)テスト前・大会前を除き各学年で設定できた。<br>(2)定期テスト前に各学年各教科で取り組み、小テストも実施できた。 | ２学期の検証 |
| | | | | | | ２学期の結果 | ２学期の結果 | |